

# 令和元年度第1回地域福祉計画推進協議会 議事要旨

<日 時>令和元年5月21日（火） 13時30分～15時00分

<場 所>和歌山市あいあいセンター福祉交流館3階会議室第3・4

## 1 開会

### ・福祉局長挨拶

和歌山市地域福祉計画推進協議会は、地域福祉計画の内容やその推進に関して協議をする場として開催している。今年度はちょうど計画の改定の時期を迎えており、昨年度から基礎調査として、利用者へのアンケート、小学生へのアンケート、福祉団体へのヒアリング、そして市内10ブロックでの交流会をそれぞれ実施し、市民の皆様から地域福祉に関する意見を聴取したところ。

今年度はそれらのことを踏まえ、新しい第4次計画の骨子案等についてご審議いただくことになっている。委員の皆様方には活発な議論により、より深みのある計画を仕上げていただきたい。

### ・出席委員の紹介及び挨拶

### ・委員長・副委員長の選出

### ・会長（議長）挨拶

新しいメンバーの委員さんも入っていただいて、大変嬉しく思っている。色々な角度から和歌山市の地域福祉に関する多様な意見をいただけることが、和歌山市の地域福祉を一層に深くしていくと思っている。

地域福祉というと何となく大きすぎて分かりづらいと言われてたりするが、国の関係でいえばこの間、我が事・丸ごと地域共生ということが言われており、介護保険の方でも既に地域を中心とした取り組みが始まっている。その意味では社会福祉というのは、例えば都道府県、自治体がやるという訳ではなく、色々な力が協働してやっていかないと進まない時代になってきている。今回、地域福祉計画の進行管理を報告いただくとともに、第4次の地域福祉計画をこの1年間かけてつくっていく。皆で地域を作り上げていくという意識をもって計画を策定していけば、絶対に和歌山市でいいものができると思っている。色々な方の力をこの協議会でいただくことになろうかと思う。

## 2 議事

(1) 第3次和歌山市地域福祉計画の進行管理について

<事務局>

・計画策定後の経過および実施プランについて

※実施プラン

《プログラムA》地域での学習や話しあいの推進

《プログラムB》災害時に支援が必要な人を支える取り組み

《プログラムC》生活困窮者への支援の推進

《プログラムD》身近な相談窓口とネットワークの充実

《プログラムE》協働事業の担い手の養成

《プログラムF》担い手や活動を支える体制の充実

(2) 平成30年度市政世論調査概要

<事務局>

・次の資料について事務局から説明

【資料2】 平成30年度市政世論調査概要

(3) 地域福祉計画について

<事務局>

・次の資料について事務局から説明

【資料3】 地域福祉計画について

<議長>

資料1-4、一番最初の「地域福祉の担い手養成」の事業について、事業終了されたその後はどういう風にお考えなのか教えていただければ。

<事務局>

平成30年度は「担い手養成」という形では事業の予算がなかったので、地域福祉計画を策定するということで、その中で地域の方に参加してもらって「地域の絆づくり交流会」を市内10か所で開いた。カードゲームで、皆さんに気軽に参加してもらい、地域の福祉を考えるという会で、同時に今回の第4次計画に向けての意見を聴取した。31年度はちょうど4次計画ができるようになっており、昨年のような形で地域に入るのは難しいかもしれないが、絆づくり交流会の中でも、こういうのをもっとやってほしい、継続してやってほしい、もうちょっと内容をこうしてほしいといった声を沢山いただいたので、できる

だけそういった声を叶えるよう、今後検討して繋げていきたいと思っている。

<議長>

人を育てるということは大切、是非その点は継続をしてお願いをしたい。また地区懇談会で具体的に地域を知る・交流するというのと、地域のリーダーを育てるというのは、若干立ち位置が異なる。双方やっていかなければならない。

地域を担うリーダーの育成、参加する人を増やすということは、ボランティアの方でも社協の方でもやっておられると思う。地域包括の方でもこの間に二層圏域の話が出ているので、その中で人を育てるのをどのようにするかというのはやっておられると思う。関係各課と対話、連携しながら、総合的に和歌山市の地域福祉を考える人材育成をどういう風にしていくか、正に地域福祉計画の柱だと思うので、高齢者・地域福祉課の方でも頑張っていたいただければと思う。

<委員>

リーダー育成と担い手育成のための、学びの場が必要だと思う。そこに参加するためにはどうしたらいいのか、呼び込みづくりとか、そういうのが見えにくいと思ったので、どういう風に工夫しているのか伺いたい。

色々な事業があるが、そこにどう地域住民が参画していくのか、参画まで持ってくるのかということを考えているのか、もうちょっと明確にしてほしい。

できたら、福祉教育という部分を、もう少しこの計画立ての中でも目玉に持って行って、その中で担い手の養成とかリーダー養成というところを明確に表していけば、横の連携も取りながら、担い手の養成ができていくのではないかなと思う。

<社会福祉協議会事務局長>

社会福祉協議会では、市の方から委託を受けた大きな事業が各地区で2つある。まず生活支援体制整備事業の第一層、第二層を社協で受けている（二層は一部）。また今年から、我が事・丸ごとの地域づくりということで、市内の42地区にある地区社会福祉協議会の、各地区の会長さん方が中心となって、老人クラブや民生委員協議会等の方々に協議体をつくっていただき、約42地区に協議をしていただく場ができた。今後それを、色々な事業をやっていただいて、地域の色々な方に入っていただいて、充実させていただきたいと思っている。

<委員>

福祉体験を小中学校に限ってしまっているのはどのような経緯なのか。昔道徳とかそういう教育をする機会があったにもかかわらず、そういう教科が減り、核家族化が進み、そして老人を知らない子どもたちが社会に目を向けた時に、老人のところで働くという選択肢がまずもってなくなってきている。子ども達

が小さい時から、福祉に関する勉強というのはすごく大切で、やはり継続的な、施設の中でのボランティアの方が、小中学、高校生に対しては有意義なのではないかと感じる。小中学校で止まってしまっている機会をもう少し上まで伸ばしていただけたらと思う。

<社会福祉協議会事務局長>

福祉教育の推進ということで、残念ながら小学校、中学校の一部しかまだできていない。小学校、中学校、もう少し大きい方々が、それぞれの施設に出向いて実際に体験するというのは重要だと思う。教育委員会の協力も必要なので、十分協議しながら、もう少し大きくできるように取り組んでいきたいと思う。

<学校教育課>

小中学校での福祉体験活動は、一部であるとは思われる。実際に老人ホームへの訪問や、障害者施設の方に出向いてというところは、あると聞いている。また6年生になると、地域に出て、自分たちのできることを見つけるというところで、清掃や、ボランティアとしての活動は行っている。

<議長>

継続した福祉教育というのが大事。小学校、中学校は福祉教育を受けたが、高校になって忘れちゃったという人が結構いる、うちの大学でも。そうすると意味がない。継続的なものを是非取り組んでいただければ、社会人になってからも地域に関われる人になり、最終的にはそれが人づくりに関わってくると思うので、よろしく願いしたい。

<委員>

一連の福祉教育を、発達段階に応じたものを、社協さんとか、行政、教育委員会が一体となって発信していくということが大切だと思う。その後に、セミインフォーマルなボランティア活動にいかに繋げるか、セミインフォーマルから、きちっとしたボランティア活動の担い手の養成というところにいかに持っていくかということ、折角こうして公民協働で地域福祉計画を立てているんだから、もう少し検討していただけたら。

<議長>

検討課題にしておくので、是非持ち帰っていただければと思う。

(4) 第4次和歌山市地域福祉計画の骨子(案)について

<事務局>

・次の資料について事務局から説明

【資料4】 第4次和歌山市地域福祉計画の骨子（案）

<議長>

2次計画と3次計画ではだいぶ作りを変えた。3次計画の最大の特徴というのは、計画概要版の3ページにあるように、アクションとプログラムを入れたこと。和歌山市の地域福祉を考えるために、喫緊にやっていかなければいけないアクションはこれで、こういうプログラムを立てます、というのを軸にした。そこを進捗管理してもらっている状況で、今和歌山市が喫緊にやっていかなければならない地域の課題を鮮明にあらわしたつもり。4次計画もある意味それを変えるつもりはなく、資料4の8ページにあるように、アクションとプログラムの表現方法を変えたり、あるいは力を入れていったらいいようなところを意識して、新規項目で入れている。こういう形のおおまかなつくりで今は検討中。中身は次に固まってくる。

ポイントとしては、話し合いとか、リーダー養成、福祉体験というのを一つ入れてみたということと、プログラムCは「生活困窮者への」ではなくて、「困りごとを抱えた人への」という入れ方をして、生活困窮者も含む形での基盤整理というのをさせていただく、という形にしたこと。それからプログラムFは、「我が事・丸ごと」ということで、国から地域におけるコーディネート支援体制ということが強く言われているので、その部分を評価させていただきたい、という意味合いで入れているところ。

<委員>

アクション2の「日常生活上の判断に不安のある人への支援の推進」というところで、「市民後見人等の育成や活動支援の推進」というのはどのようなことを考えているのかということをお聞きしたい。実際のところ家の関係が難しく、兄弟には任せたくない、子供にも任せたくないという方が結構いらっしゃる。そういう方に対して、後見人制度を利用するようにとこちらも促すが、費用が高くてとても頼むことができないというのが、特に和歌山では発生している。どのような資格を持っている人を対象として考えているのか、どのような感じでしょうかとしているのか、お聞きできたら。

<社会福祉協議会事務局長>

社会福祉協議会では県社協の方から委託を受け、福祉医療サービス援助事業というのをやっている。例えば、通帳を預かってお金を出し入れするとか、そういうお手伝いをする。現在100名ぐらいうちの方にいるので、それに加えて、今後市の方とまた連携しながら、後見人制度の中核機関であるとか、そういう勉強もしながら、市と協議していきたいと思っている。今後必ず権利擁護

というのは大変重要になってくると思う、よろしくお願ひしたい。

<高齢者・地域福祉課長>

権利擁護の件で、かなり市の方にも色々相談事はある。実際に市民後見人はうちの方では進んでいないのは確か。県の方ではやられているが。その辺は社協、県と色々協議しながら考えていきたいと思っている。それから中核機関等、これはまだ和歌山市は全然進んでいない。今年度中に先進地、豊田市等の視察に行き、今後どうしていくかという検討をしているところ。

<委員>

8ページの「話し合いの場の開催支援」、このプランの具体的なイメージみたいなものがあれば伺いたい。もう一点、アクション3のところの①のところの「福祉教育、福祉体験の推進」について、これはお願ひしたいのだけれども、従来の体験型福祉だけで、貧困な福祉観の再生産にならないように、できればICFの観点をしっかり入れて、環境が障害をつくっていくというところも視野に入れて、バリアフリーとかそういったことをやっていくことは健常者にとっても非常に大事な視点であるというところも入れて、推進してほしいと思う。

<事務局>

話し合いの場というので、昨年度、地域の絆づくり交流会というのを開催し、その中で、やっぱりもうちょっとこういう風なことをやってほしい、初めて参加した、こういうものがあつたのかという声を聞いた。色々な団体さんでも色々な取組みをされていると思うが、まだまだ話し合う場というのが、基本的に数自体少ないのかなというのは実感した。ここ（骨子案）へ「話し合いの場」というのを、担い手の養成とは別で設けることによって、今後地域福祉を広げていこうというような意味合いを込めて、入れている。

<委員>

我が事丸ごとの中の、大型補助金事業の中でも、話し合いの場づくりの形成というのが、最大のポイントだと思う。座学で学習したものをアクションとして出していくような場を、色々な形でつくっていったら、多分この地域福祉計画自体がもっと重層的なものになっていくと思うので、この話し合いの場づくりというところを重点的に掘り下げてほしい。

(5) 地域福祉活動事例集（案）について

<事務局>

- ・次の資料について事務局から説明

## 【資料5】 地域福祉活動事例集（案）について

<議長>

前回はやったことで、今回もやりたいという趣旨。

協議会全員で選びたいが、人数が多くなってしまうので、私の一存で部会をつくらせていただいて、選定メンバーも決定させていただきたいので、よろしくお願ひしたい。

<委員>

この記入様式というのは手書きでもいいと思うが、Wordとついているのは。先に「Word形式」と書かれていると、そこまで書けないと思う人もあるかと思う。

<議長>

Wordまたは手書きでも、ですかね。

<委員>

そっちの方がハードルが低いかと思う。

### (6) その他

#### ・社会福祉協議会からの報告事項

現在、第4次地域福祉活動計画をつくっている。地域福祉計画と連携しながらということで、5年計画で策定している。活動計画については、今回はアクションプランを兼ね、具体的な数値目標を入れたり、市内の42地区を10ブロックに分けてそれぞれ地区別の活動計画をつくっていただいたり、少し細かく、特色のある計画にしていきたいと思っている。社協では理事会の方でこれから5回程度検討し、来年の3月頃完成できたらと思っている。

#### ・次の事項について事務局から説明

#### 【資料その他】 全体スケジュール

#### ・各委員から一言

<委員>

子どもの頃からの福祉体験活動の、資料1-4で、先程は幼少の時分からそういうのも取り入れていったらということをお聞きしたけれども、まさしくその通り。幼稚園に（近くの老人施設の人が）来たりとか、幼稚園から（近くの老人施設に）行ったりとか、そういうことをする中で、小さい時分からの子ど

もの心の中に、老人を思いやる心、また弱者を思いやる心が芽生えるんじゃないかなと感じた。学校教育課となっているが、保育こども園課、また子育て支援課もあるので、そこらの方の行政の方も、力を入れていただければと思う。

<委員>

自分の地区は、過去にも勉強会で先進的なことに取り組んでいる地域の方のお話を聞いて、すごく遅れていると思った。進んでいるところと進んでいないところの差もあると思うけれども。私はちょっと子育てに関わっているので、進んでいるところのお話もまた聞かせていただきたいと思う。

<委員>

資料2の中のアンケートで、災害に備えての準備ができているかというのが、本当にパーセントが少ないと思う。自然災害を防ぐことは我々にはできないが、防災は、小限にとどめることはできると思う。地域の方でも避難訓練云々いたり、固定家具の取り付けなんかも市の方から言ってくださってるけれども、皆さん関心を持つことが少ないんじゃないかと思う。だからもう少し、よろしくお願いしたい。

<委員>

ボランティアというとグループの形も全然様々、考え方も違うので、それを一つにするということは難しい。自由なボランティアというのは大勢いるが、考え方も、地域に行っても、施設に行っても皆違う。それをまとめてどうしていいかというのが、ものすごく難しいことになるので、社協さん、市の方では色々な形でお世話にはなっているが、これからも色々な形で頑張っていきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

<委員>

前年度、この3月で終わった、5年計画で（老人クラブの）会員を100万人増やそうという計画に取り組んだ。蓋を開けてみると、ざっと80万人の減少。入ってくれている人は大体対象となる人の三分の一ぐらい。三分の二ぐらいは入れる対象の人だけでも入っていない。地域福祉という形の活動を進める中で、私は知らんというようなかっこうの人が増えるかもしれない。できるだけ、福祉の関係のところにも私も参加しましょうという人を増やしていくような活動にしないと、活動しない側の方がどんどんまた増えてくる。ごく一部の人だけで進めていくという形ではなくて、輪を広げるような形を進めていかないと、本当の福祉の活動にはならないんじゃないかなと感じる。



<委員>

他人ごとを自分ごととするきっかけとなるような、住民懇談会、住民会議を核とした、プロセス重視型の地域福祉計画の策定となることを、是非とも望みたい。各集まりの中で予定調和じゃない空間の環境というのが必要となってくると思うの、これを意図的に皆さん方でつくってほしい。この計画のポイントは、参加の力と、それをどういう風に参画まで持っていけるのかというような仕組みを、いかにこの場でつくっていけるのかというところだと思うので、是非ともいいものをつくっていききたいと思うので、よろしく願いたい。

<委員>

今日初めて参加させていただき、このような会があるのは前任から引き継いだついでこの間聞かされたが、素晴らしいことだと思う。縦割りだとばかり思っていた和歌山市も、このように全ての方々が福祉に関して参加してくださっている、市の方がこれだけやっていたいただいているというのが分かっただけでも、大変な収穫だった。

<委員>

身体障害者連盟は、肢体、聴覚、視覚障害を持つ者が集まって連盟を形成している。私共の一番望むとするところは、仕事をもって、社会人としての義務を十分果たして、一人の社会人として生きていきたいということ。今日は色々なお話の中で、福祉教育の話なんかも盛んになされており、人の心の分かる優しい人材をつくるためにという風なお話で進められていたかと思うが、障害者というと、例えば社会的弱者、交通弱者と、みな弱者が付く。色々思いやりを世間の皆様方からいただきながら一生を送るというのは、大概辛いこと。だからいわゆる結果の平等ではなしに、私達でも活動できるスタートとしての平等、機会の平等を準備していただきたい。後は私達自身が頑張りますということで、これからも活動をして参りたいと思うので、よろしく願いたい。

<委員>

自治会では色々な関わりを、広報とかを連絡所とかそういうところであると、後で聞いてないという人がいるので、今年からこういう福祉計画やこういうものも、住民の方へ、一歩でも近づこうということで、自治会館を活用しようと今取り組みをしている。防災なんかでも参加している人は知っているが、参加していない人は知らない。こういう問題があるので、こちらから、一番近づくにはどこがいいかということで、まず自治会館で進めていきたいと計画しているところ。

#### <委員>

個人的には地区社協の会長をしているので、地域のつながりを大切にしていきたいと考えている。今現在、42地区一つになりまして、今回からは我が事・丸ごとの地域づくりに取り組んでいくことを目標としている。地域資源の活用とか色々なことで、地域の皆さんに自分の地域をよくしよう、知ってもらおうという活動をこれから進めていきたいなと思っているので、皆様方のご協力、また行政の応援もしっかりとお願いしたい。

いつもちょっと、学校で何か起こったことは、公表してくださることが少なく、もっと地域で共有できれば、色々な場があると思うので、そういうところを共有させていただきたいというところを、行政の方達にもお願いしたい。

#### <委員>

今日は初めて参加させていただいた。地域福祉は一言では言い表せないような大きな問題で、一番大事なことだと思う。それぞれの地域で私達（婦人会）は常に、地域は家族だと思ひましょう、と話すことが多い。今は家族というのも多様化されて色々な形になってくると思うが、子ども達と活動をしたり、地域で私達ができることを、家族として、声掛けや言葉掛けをしながら、見守りながら、一緒に歩いていきたい。また、「地区」と一言で言っても広く、知らなかったというような人が本当に多い。それで言葉掛け、声掛けというのはものすごく大事だなと。つながり、絆、そういう風なところにもっともっと婦人会でできるところは参加して、活動をしていきたいと思う。

#### <委員>

報告の中で、平成30年度の、水とか食料の買い置きが、18～19歳が80何パーセントある。それは色々なことで教育されているということかなと思う。それと柔軟に対応していけるということ、大人は必要だ、と言いつながらなかなかそこまで実行しない。今どきの若い者はって言えない。地域福祉も、子どもとかそういう人達をどういう風に育てていって、一緒にやっていくかということが大事なのかなと思う。また、相談とか助けてもらう人が身近にいるというのが86.2パーセントなものすごく大きなところ。自助・共助・公助という風に言う、自助・共助のところで、本当に助け合いができるかどうか、この高齢化社会の中で分からないが、安心感のあるまちだというのも、まだまだ和歌山市捨てたものじゃない。こういう良いところを見ながら、そこをもっと育てていくためにはどうしたらいいかというのを、福祉計画の中で一緒にやっていけたらということで、今日はすごくいい機会を与えていただいたと思う。

### 3 閉会